



決算説明会

2007年3月期中間期

2006年10月31日
ミネベア株式会社

1. 業績の説明

2. 方針と戦略

2006年10月31日



業績の説明

取締役 常務執行役員 加藤木 洋治

2006年10月31日



業績の説明は全て連結ベースです。

連結業績ハイライト

(百万円)	2006年3月期	2007年3月期	前年同期比 伸び率	2007年3月期 中間期	
	中間期	中間期		期初計画	達成率
売上高	155,739	163,998	+5.3%	152,000	107.9%
営業利益	7,224	13,367	+85.0%	11,500	116.2%
機械加工品	11,112	13,317	+19.8%	12,150	109.6%
電子機器	△3,887	50	黒転	△650	黒転
経常利益	5,322	10,947	2.1倍	8,400	130.3%
税引前利益	4,425	11,114	2.5倍	8,000	138.9%
純利益	2,421	7,468	3.1倍	5,300	140.9%

為替の影響 06/3期中間期 → 07/3期中間期 売上高 +75.3億円、営業利益 +6.4億円
(US\$109.39円 → 115.26円、 タイパーツ2.69円 → 3.03円)

2006年10月31日

3



2007年3月期中間期の連結業績は、売上高 1,639億9,800万円、営業利益 133億6,700万円、純利益74億6,800万円となりました。前年同期に比較して、売上高は5.3%増、営業利益は85.0%増、純利益は3.1倍と、大幅な増収増益となりました。期初計画と比較しても、これを大きく上回っております。事業セグメント別では、電子機器セグメントが黒字化しました。

四半期業績

(百万円)	2006年3月期	2007年3月期		前年同期比 伸び率
	2Q	1Q	2Q	
売上高	80,049	80,201	83,797	+4.7%
営業利益	4,214	5,858	7,509	+78.2%
経常利益	3,159	4,713	6,234	+97.3%
税引前利益	3,595	5,205	5,909	+64.4%
純利益	1,441	3,288	4,180	2.9倍

為替の影響 06/3期2Q → 07/3期2Q 売上高 +34.1億円、営業利益 +3.9億円
(US\$111.50円 → 115.80円、 タイパーツ2.68円 → 3.05円)

2006年10月31日

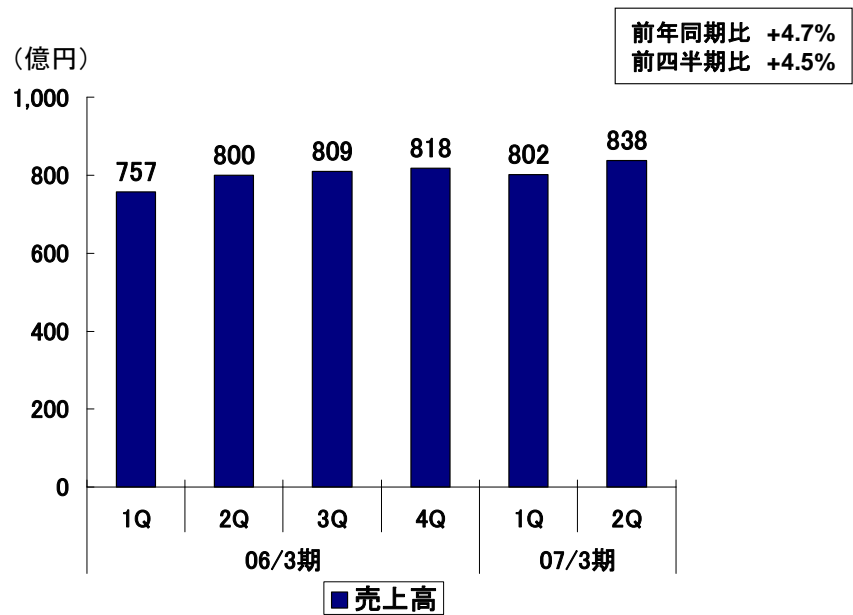
4

 Minebea

これは、第2四半期の連結業績です。売上高は4.7%増、営業利益は78.2%増、純利益は2.9倍と、中間期と同様に、前年同期を大きく上回りました。

四半期推移

売上高



2006年10月31日

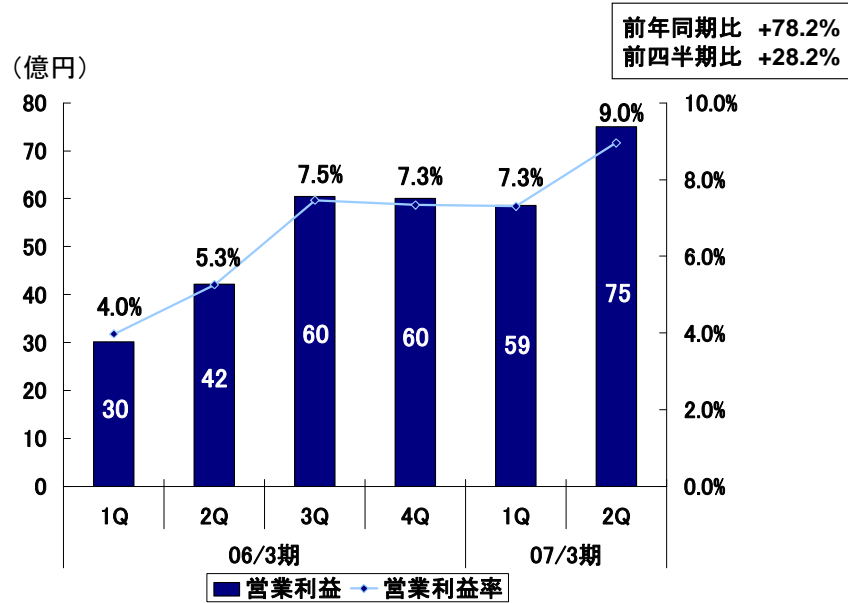
5

Minebea

第2四半期の売上は、第1四半期と比べて4.5%増となりました。為替の影響は第1四半期と比べて+7.7億円の影響がありました。機械加工品セグメントで、ピボットアッシー、ボールベアリングが伸び、電子機器セグメントでもスピンドルモーターやライティングデバイスが伸びました。

四半期推移

営業利益



2006年10月31日

6

Minebea

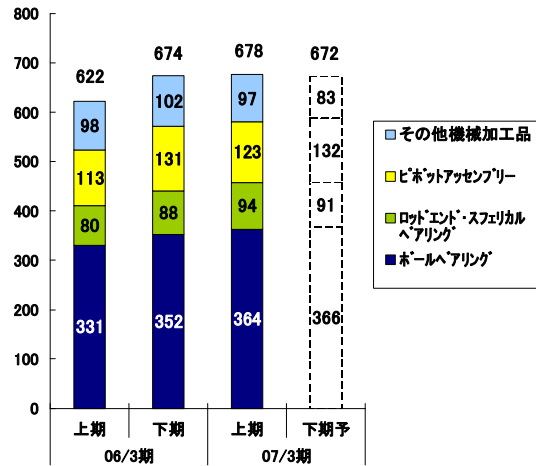
第2四半期は第1四半期と比べて28.2%増となりました。前期の第3四半期以降、営業利益、営業利益率ともにほぼ横ばいで推移していましたが、第2四半期は営業利益は75億900万円、営業利益率は9.0%のレベルまで改善しました。尚、為替の影響は第1四半期と比べて+0.7億円の影響がありました。

セグメント別

機械加工品事業 売上高・営業利益

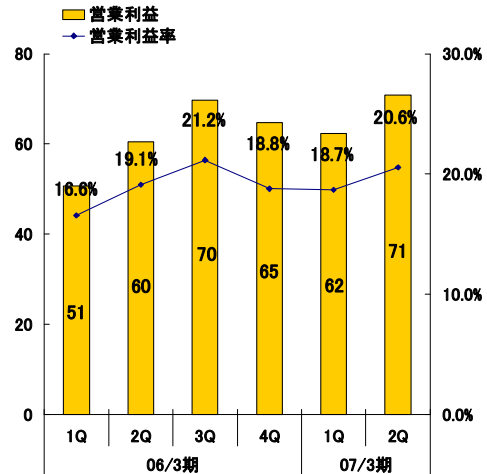
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



2006年10月31日

7

Minebea

機械加工品セグメントでは、第2四半期の営業利益は70億円8,900万円、営業利益率が20.6%でありました。

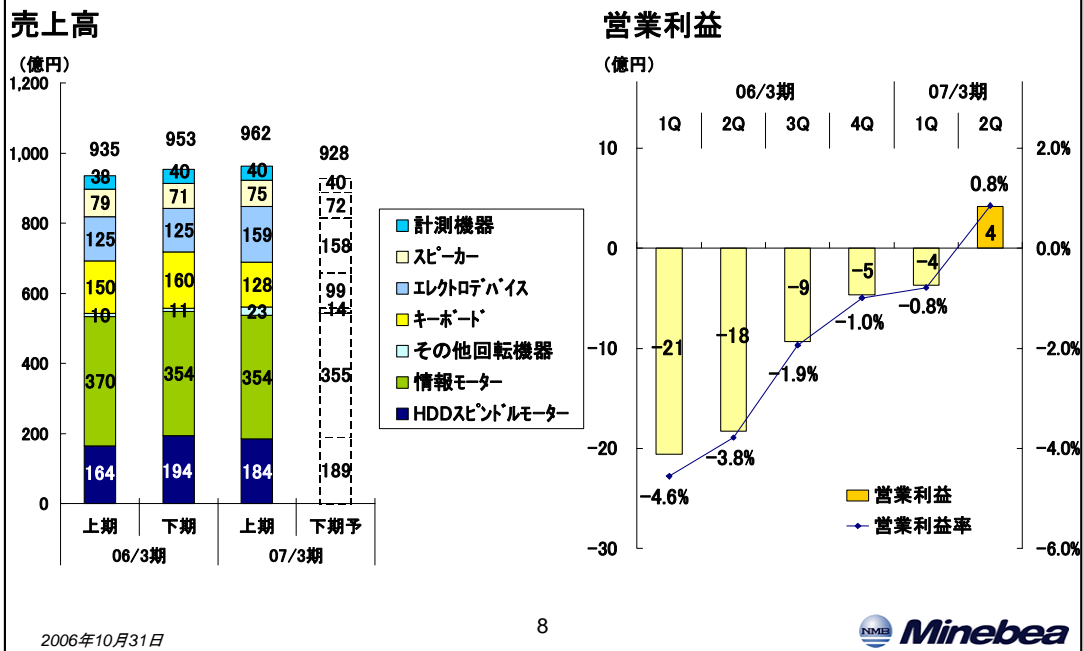
ミニチュア・小径ボールベアリングは、第2四半期の売上高が前年同期比13.1%増、第1四半期と比べ2.5%増となりました。販売数量の増加に加え、原価低減に注力した結果、第2四半期における販売数量は月ごとに増加しており、社内使用とあわせた販売数量は平均で月1億8,800万個と過去最高のレベルまで増加しました。

ピボットアッシーについては、第2四半期の売上高は前年同期比8.1%増、第1四半期と比べて14.1%増となりました。第1四半期はHDDメーカーの生産調整により厳しい状況でしたが、7月以降急激に受注が回復し、第2四半期における平均販売数量は月2,210万個へ増加しました。

ロッドエンドは好調な航空機生産を受けて、引き続き堅調に推移しました。

セグメント別

電子機器事業 売上高・営業利益



電子機器セグメントは、第2四半期に営業黒字化し、上半期としても黒字となりました。

スピンドルモーターは、HDD需要の回復を受けて、第2四半期の平均販売数量は490万台、第1四半期に比べ9%増となり大幅に増加しました。加えて、マージンの高い2.5インチHDD向け製品の比率が高まったため、収益が改善しました。

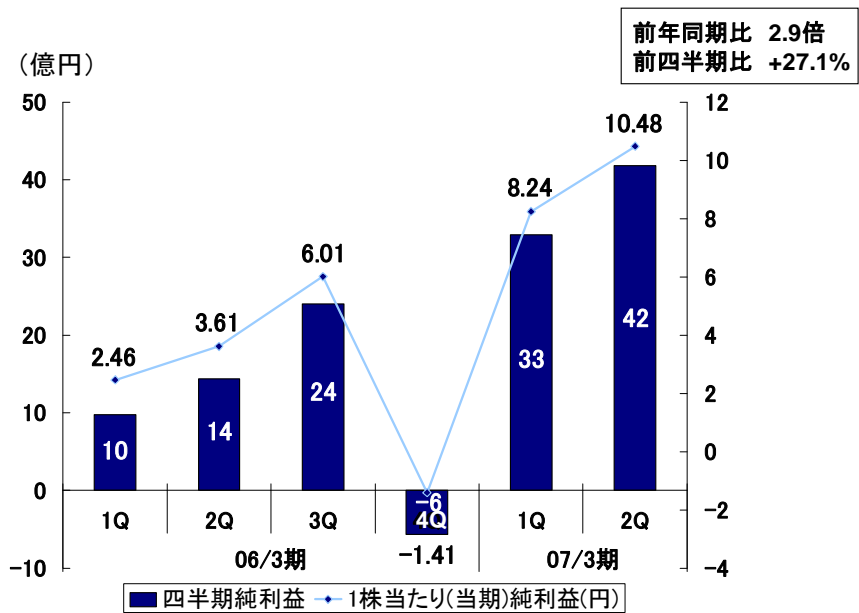
また、情報モーターにおいても、ファンモーターの平均販売数量が第1四半期に比べ11%増え、また、ステッピングモーターも好調に推移し黒字幅の拡大に寄与しました。

エレクトロデバイスでは、ライティングデバイスが順調に販売数量を伸ばしました。

キーボードの販売数量は、第1四半期に比べほぼ横ばいでした。

四半期推移

当期純利益



2006年10月31日

9

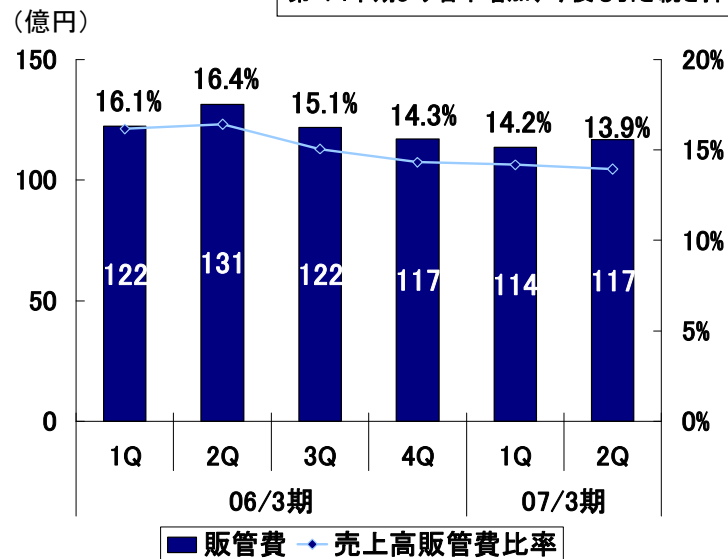
Minebea

営業利益の改善により、第2四半期は純利益41億8,000万円、一株当たり10.48円と、前年同期比、第1四半期比とも大幅に増加しました。

四半期推移

販管費

第1四半期より若干増加、今後も引き続き抑制を目指す



2006年10月31日

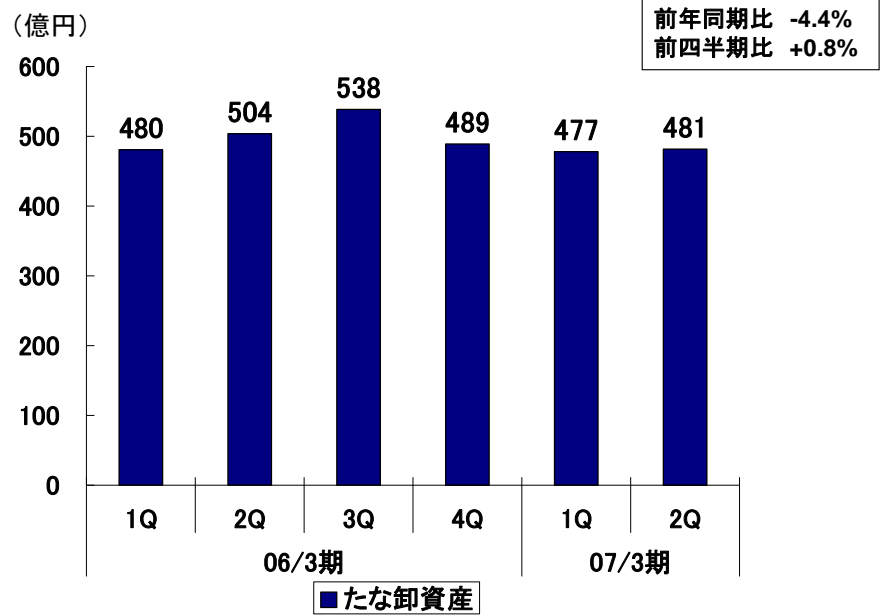
10

Minebea

売上高の増加に伴い、第1四半期と比べて3億円増加し、116億円7,600万円となりましたが、売上高販管費率は13.9%まで低下しました。今後も引き続き、販管費および経費の抑制に努めてまいります。

四半期推移

たな卸資産



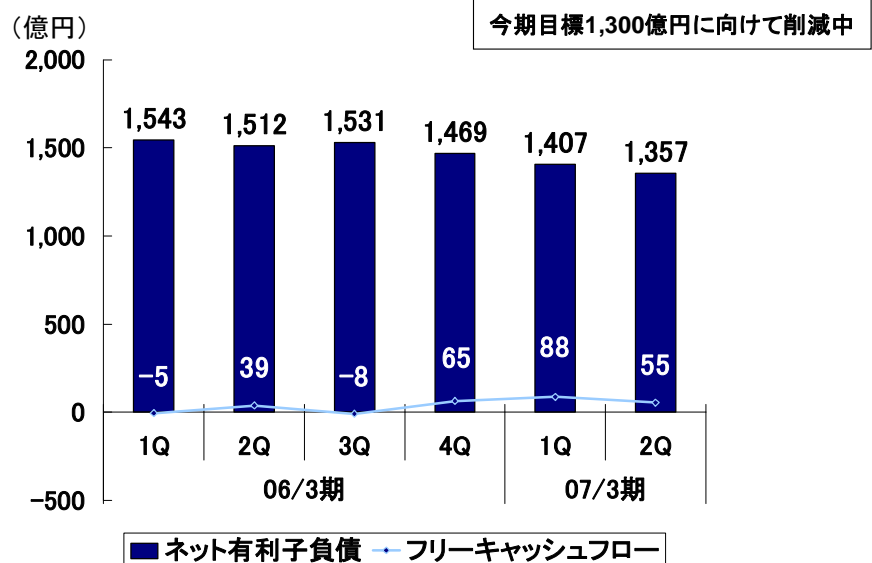
2006年10月31日

11

Minebea

たな卸資産は、第1四半期と比べて若干増加しました。今後も在庫削減に取り組んでまいります。

四半期推移 ネット有利子負債



ネット有利子負債 : 有利子負債合計 - 現預金
 フリーキャッシュフロー : 営業活動CF + 投資活動CF

2006年10月31日

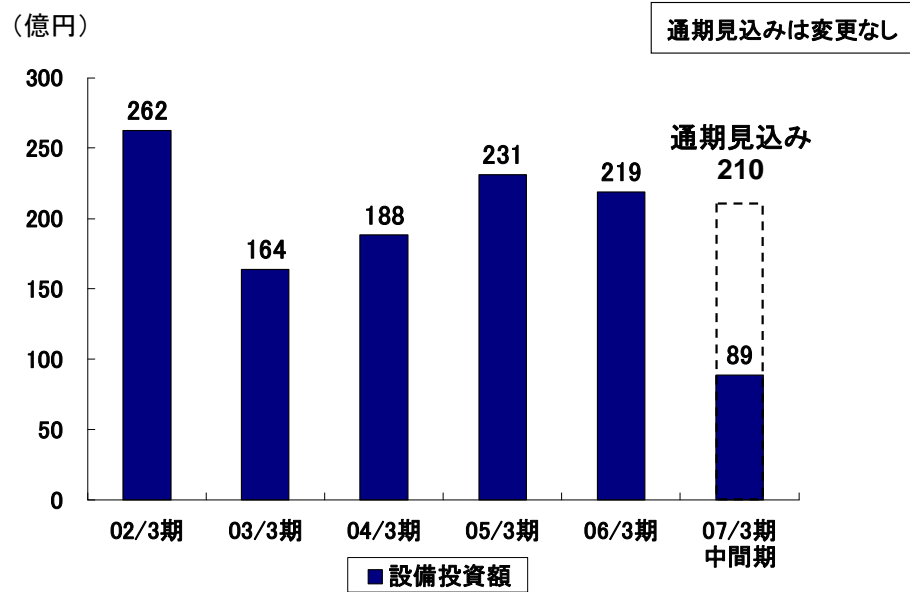
12



第2四半期末における、有利子負債総額から現預金を差引いたネット有利子負債は減少し、1,356億6,100万円となりました。今期末の目標であるネット有利子負債残高1,300億円に向けて、着実に進捗しております。

年推移

設備投資額



2006年10月31日

13

Minebea

通期予想210億円に対し、中間期における設備投資額は、89億500万円でした。主な投資はボールベアリング、ロッドエンド事業などでの増産投資、スピンドルモーター事業などにおける合理化投資です。

通期業績予想

(百万円)	2006年3月期	2007年3月期修正予想			前年比	従来予想		従来予想比
	通期	上期実績	下期予想	通期予想	伸び率	下期	通期	通期増加額
売上高	318,446	163,998	160,002	324,000	+1.7%	158,000	310,000	14,000
営業利益	19,269	13,367	14,633	28,000	+45.3%	13,500	25,000	3,000
経常利益	14,595	10,947	11,053	22,000	+50.7%	10,600	19,000	3,000
税引前利益	9,620	11,114	9,886	21,000	2.2倍	10,000	18,000	3,000
(当期)純利益	4,257	7,468	6,032	13,500	3.2倍	4,700	10,000	3,500

為替レート的前提 06/3期実績 → 07/3期想定
 (US\$113.09円 → 115.05円、 タイパーツ2.79円 → 3.03円)

2006年10月31日

14



次に業績見込みですが、下期についても上方修正します。その結果、通期業績見込みは売上高3,240億円、営業利益280億円、経常利益220億円、当期純利益135億円に修正します。

通期セグメント別予想

(百万円)	2006/3期	2007/3期			前年比 伸び率	従来予想	
	通期	上期実績	下期予想	通期予想		下期	通期
〔売上高〕							
機械加工品	129,595	67,768	67,232	135,000	+4.2%	68,000	132,000
ベアリング関連製品	109,547	58,101	58,899	117,000	+6.8%	59,500	115,000
その他機械加工品	20,047	9,667	8,333	18,000	-10.2%	8,500	17,000
電子機器	188,851	96,229	92,771	189,000	+0.1%	90,000	178,000
回転機器	110,136	56,016	55,884	111,900	+1.6%	56,500	110,000
その他電子機器	78,715	40,213	36,887	77,100	-2.1%	33,500	68,000
合計	318,446	163,998	160,002	324,000	+1.7%	158,000	310,000
〔営業利益〕							
機械加工品	24,556	13,317	13,683	27,000	+10.0%	12,350	24,500
電子機器	△ 5,287	50	950	1,000	黒転	1,150	500
合計	19,269	13,367	14,633	28,000	+45.3%	13,500	25,000

2006年10月31日

15



まず下期の売上ですが、機械加工品セグメントにおいては、ピボットアッシーやボールベアリング事業での売上増加が見込まれるものの、主にその他機械加工品での減少により、売上は上期実績と比較し、5億円の減少となる見込みです。通期では前年比54億円、4.2%の売上増加の見込みです。また、電子機器セグメントにおいては、スピンドルモーターで若干の売上増加が見込まれるものの、振動モーターや、キーボード事業での不採算モデルからの撤退の影響が大きく、上期実績と比較し、売上は35億円減少の見込みです。通期では、ほぼ横ばいの見込みです。これにより、全社合計では、上期実績比較では40億円、2.4%の減少、通期では前年比56億円、1.7%の増加となる見込みです。

次に下期の営業利益ですが、機械加工品セグメントにおいては、ピボットアッシーやボールベアリング事業での着実な利益増加により、上期実績と比較し4億円の増加を見込んでいます。通期では、前年比24億円、10.0%の増加の見込みです。また、電子機器セグメントにおいては、情報モーターやエレクトロデバイス事業での順調な利益増加に加え、キーボード事業での事業構造改革施策による損益改善を見込んでいることから、上期実績比較で9億円の増加を見込んでいます。通期では、前年比63億円の改善により黒字転換すると見込んでいます。これにより、全社合計では、上期実績比較では13億円、9.5%の増加、通期では87億円、45.3%の増加となる見込みです。

下期の事業環境では世界経済動向などに注視が必要ではありますが、昨年来取り組んできた収益構造改善策が効果を上げつつありますので、本予想を着実に達成し、来期につなげて行きたいと考えています。

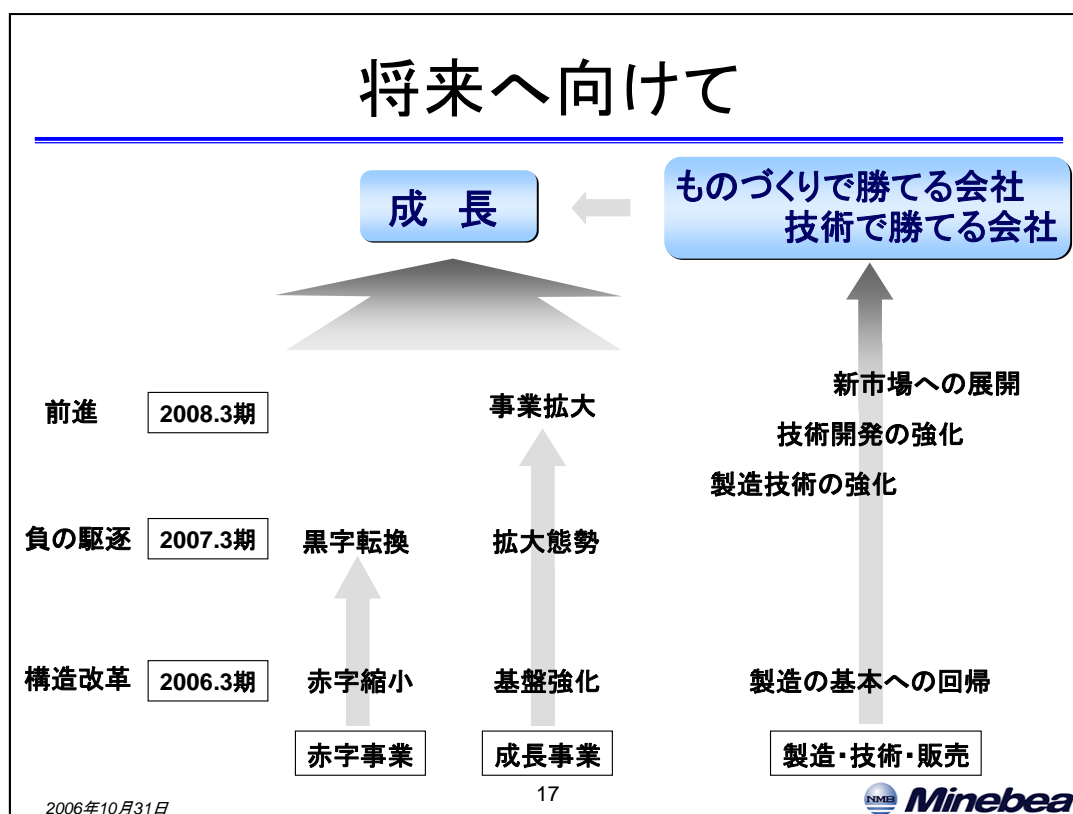
方針と戦略

代表取締役 社長執行役員 山岸 孝行

2006年10月31日



将来へ向けて



前期では構造改革に着手し、今期は電子機器事業の赤字に終止符を打つ事を第一に取り組んでいます。

また、来期は成長事業の前進へ向けた拡大態勢に入る予定ですが、こちらは想定していた以上に早期に拡大態勢に入れると考えています。

来期での「前進」に備え、「ものづくりで勝てる会社、技術で勝てる会社」をこれからの当社があるべき姿の目標としています。成長の基盤はしっかりと出来上がったと確信しています。

赤字事業は黒字転換したところが終着駅ではなく、そこが始発駅との認識を持ち、更に成長事業に育てていくことが次の課題です。

上半期の成果：マージン上昇

収益改善策の効果が現れつつある

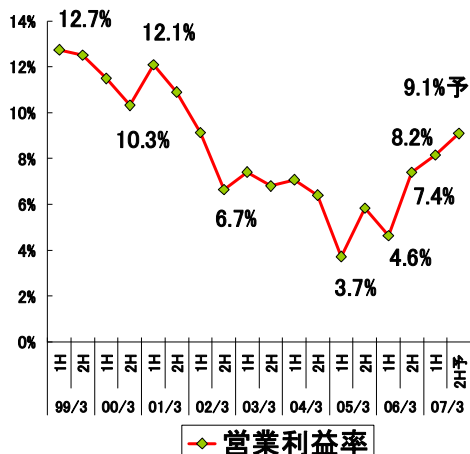
◆ 収益拡大：機械加工品セグメントは順調に増益

- 主に数量効果と原価低減

◆ 負の駆逐：電子機器セグメントが営業黒字へ転換

- ファンモーターが牽引する情報モーターの収益化
- ライティングデバイス、計測機器の収益アップ
- HDDスピンドルモーターの黒字定着

収益改善策の効果で営業利益率は上昇中



2006年10月31日

18



上期は、収益改善策の効果が現れつつあり、営業利益率は低落傾向も前期で歯止めがかかり、回復軌道に乗ってきています。

機械加工品セグメントは利益向上を果たし、全体の利益を引き上げました。ボールベアリング事業に加えロッドエンド等の航空機部品事業が好調に推移しています。ものづくりの基本へ回帰することによる原価低減と数量拡大効果が相俟ってこの結果をもたらしたと言えます。

電子機器セグメントでは第2四半期において営業利益が黒字転換し、中間期では黒字化も果たせました。ライティングデバイス製品と計測機器事業が昨年度に引き続き好調に収益を伸ばしているのに加え、情報モーター事業も大きく収益改善を果たし、HDDスピンドルモーターの黒字化定着もあり、電子機器事業全体での利益化が果たせました。

情報モーター事業に関しては、支払ロイヤリティの減免並びにファンモーターの復調による増益が大きく寄与し収益改善を果たせました。下期ではこの情報モーター事業の黒字化の定着を果たしていきます。

後はキーボード事業の改善が残っていますが、これは下期にて事業構造改革を具体的に実行に移すことで収益改善が図れると見込んでいます。

来期での営業利益率10%を視野に入れ、下期では来期成長へ向けて、更なる改善と拡大へ向けた基盤作りに取り組んでゆきます。

キーボード事業構造改革の実施

<黒字化を目指して>

- 3Q~4Qで不採算モデルの生産終了
生産体制の縮小（人員削減と生産設備の除却）
- 期末での月次黒字化を目指す
- 高付加価値製品への移行
ノートPC、ワイヤレスPC用キーボード中心
- 来期へ向けて
技術開発力の強化ー基礎技術開発体制の構築
新開発技術の導入による新製品の展開

2006年10月31日

19



キーボード事業は、事業構造改革の実施により収益改善を果たしてゆく予定ではありますが、この構造改革ではワイヤードキーボード事業よりの撤退を予定しています。こちらは第3四半期から第4四半期にかけて、不採算モデルの生産終了を行います。

生産終了に伴い人員削減と不必要な生産設備の除却を行います。生産能力は現在のほぼ半分を予定し、売上規模は現在の約65%で想定しています。この体制でノートPC用キーボードとワイヤレスPC用キーボードが中心の高付加価値製品へ移行することで期末までに月次ベースでの黒字化を目指して取り組んでいきます。

また、下半期では来期以降に向けて高付加価値製品へ特化してゆける技術体制の再構築を図ります。具体的には新たな開発チームを設置し、新しいキースイッチの開発或いは静音タイプのキーボードの開発を行い新たなビジネス展開を図ってゆきます。

成長事業：拡大態勢の構築（1）

◆ボールベアリング = 月産2億個生産体制へ

- ミニチュアベアリングの増産
- アユタヤ・チャイチー工場の増築（組立工程）

◆ロッドエンド・航空機用ベアリング = 高付加価値化製品の粋

- 売上高はミネベアグループの10%に相当
- 工場間での役割分担の明確化（より高付加価値化を目指して）
- 技術開発部門の強化（軽井沢工場、ピーターボロー工場）
熱処理、表面処理等の特殊工程及び各種耐久試験工程
- タイ生産は生産能力及び範囲の拡大

2006年10月31日

20

 Minebea

先ずボールベアリングであります。市場よりの需要はミニチュアベアリングが多くなってきています。そのため、ミニチュアベアリングの増産を果たしています。

機械加工工程は設備増設を行い、組立工程では床面積が不足状態にありますので、タイのアユタヤ工場とシンガポールのチャイチー工場の増築を行い現在設備の導入を図っています。

次にロッドエンド並びに大型サイズのボールベアリングを含めた航空機用部品であります。

ファスナー関係を含めたこれら航空機用部品の売上は現在ミネベアグループ全体の10%を占めております。この事業は長期的に成長が見込めるため事業拡大へ向けた態勢を作ります。航空機用部品は日本、アメリカ、イギリス、タイの4カ国7工場で生産していますが各工場での生産品目と加工度によりそれぞれの役割分担を明確にし、各工場がそれぞれのレベルで一番付加価値度を高められる様な区分を行いました。また軽井沢工場とアメリカのピーターボロー工場については熱処理、表面処理等の特殊工程や航空機特有の厳しい耐久試験のノウハウの蓄積を高めた技術開発部門を強化しております。

一方で航空機部品でも年々高まってゆくコストダウンの要請にも応えてゆける様にタイでの生産規模を更に大きくして生産する部品の範囲も広げて行きます。その上で航空機部品として更に事業拡大を図っていきます。

成長事業：拡大態勢の構築(2)

◆ライティングデバイス = 更なる技術の進化

- 高輝度・超薄型バックライトの次世代製品開発
- カーナビゲーション用バックライトのビジネス化
- 中型・高輝度次世代バックライトの開発 PC用新製品を目指す
- 周辺部品との複合化を目指した製品

◆計測機器 = 市場で輝ける製品へ

- 部品加工から組立までの一貫生産ラインの構築
- 次世代製品の開発
自動車用センサーの新製品開発・多目的荷重センサーの開発
医療機器、健康器具等の市場での製品展開

2006年10月31日

21

 Minebea

ライティングデバイスは技術開発を更に強化し、技術面での優位性を高め市場でのイニシアチブをとれる様にしていきます。そのためには常に先端技術開発品を市場に出してゆくことが必要となります。当社では次期製品として導光板の厚さを現在の0.4ミリから0.285ミリまで薄くした超薄型高輝度バックライトの開発に成功しました。現在はお客様に紹介を始めており、来春発売を予定しています。

またカーナビゲーション用バックライトの事業化を今期中に計画しております。中型バックライトについては次世代製品として、ノートPC用の液晶に使われるバックライトの開発を行い、更に市場範囲を広げてゆく計画です。

またライティングデバイス事業としては液晶用バックライトだけではなく、光学系製品に加え周辺部品との複合化製品をプロジェクター等のマーケットで展開をしていく計画です。

次に計測機器事業ではより高度化された製品と品質面での優位性を展開できる事業構築を行っていく必要があるためタイ工場、上海工場部品加工から組立工程までの一貫した生産ラインを作り上げました。ものづくりの原点への回帰を実践することにより市場での要請を的確に部品レベルまで時を置かず反映し、きめ細かな市場対応が出来る製品を目指しております。

同時に次世代製品の開発と新しい市場への展開をすることにより事業拡大を計画しています。新製品としては自動車用乗員検知センサーでは第二世代の製品開発、或いは6軸力センサーを含めた新しいコンセプトのベクトルセンサーの開発等を軸に進めています。また新しい市場としてはこれからの社会で要請が多くなって来るであろうと想定される医療機器や健康器具等の市場での展開を考えています。

成長事業：拡大態勢の構築(3)

◆モーター事業 = 新たなる可能性へ

●事業の再構築と方向性の明確化

- HDD用スピンドルモーター = 量よりも質
損益重視・技術の進化と高性能・小型化へのチャレンジ
- ファンモーター = ビジネス拡大へ再挑戦
製品の付加価値化・市場の拡大と高機能化への対応
- ステッピングモーター = 製品の特長を生かし+αを
HB モーター単品から複合化へ
PM 小型化・高機能で新しい市場へ
- DCブラシモーター = 思い切った方向転換
アプリケーションの選択・損益重視・技術面からの再思考
- 振動モーター = 徹底したコストダウン
生産地の集約と受注の選択
- その他のモーター = 技術からの選択
取り組む価値を技術から見出す

2006年10月31日

22



HDDスピンドルモーターは黒字化が定着し、情報モーターも今期黒字化を果たします。モーター事業全体は当初計画通り今期で負の駆逐は完了できると見えています。

ミネベアグループ売上高のうち大きなウエートを占めるモーター事業は、成長事業に育て上げてゆく基盤作りを下期において重点課題とし取り組んでいきます。その為にモーター事業全体として事業の再構築と各モーターの進む方向を明確化した取り組みが必要となります。

HDDスピンドルモーターは量より質への転換を図りました。その上でHDD自体が垂直磁気等の技術進化に対応してゆける技術の研鑽を行うことと、さらに小型化してゆくデバイスに対応していけるような開発技術に重点を置いて取り組んでいきます。

ファンモーターは製造の見直し、原価低減を果たし、確実に一定の利益を出せる体質になりました。再度ビジネス拡大へ向けた取り組みが出来る段階になったと判断しています。来期での成長の基盤作りを確実に今下期で行っていきます。

ステッピングモーターはモーターそのものの特殊性と高機能化を十分発揮できる市場で、今後拡大を図っていきます。HBモーターではモーター単独の製品からより付加価値をつけた製品開発へ、そして新しい市場として医療機器或いは健康器具等の市場への参入を考えています。PMモーターについては当社の得意とする小さな部品加工の技術を最大限発揮できるように、モーター自体も小型化へシフトしていきます。市場としては車載用或いはデジカメ等がこれからのPMモーターの拡大の市場になります。

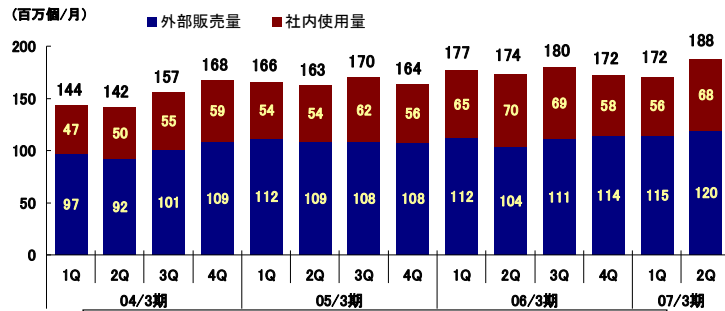
ブラシ付きDCモーターは思い切った方向転換が必要であると考え、現在、製造拠点のマレーシア工場集約とアプリケーションの転換を進めております。マレーシアへの集約は下期で完了し、アプリケーションは従来のAV主体から車載の電装、家庭用ホーム機器等への転換を図るべく製品開発を行っております。来期ではこの新しい開発製品にて具体的な展開が出来ると考えています。

振動モーターは徹底したコストダウンに絞り対応していきます。生産地は中国へ集約しています。受注は利益が出る数量で選択を行い来期での利益化を目標としています。

その他のモーターはミネベア本体中心に少量生産をしている各種モーターであり、これらモーターは少量で付加価値の高い製品を中心にし、技術的に優位に展開できるビジネスを行っていきます。

ボールベアリング事業の成長力

- ◆ 市場の成長 = ミニチュアサイズの需要増加
 - HDD(ピボットアッシー)、デジタル製品等の小型化が後押し
- ◆ 供給力と原価低減 = 月産2億個の生産体制確立
 - 継続的な品質追及と生産性向上
 - 市場で先行する生産能力の拡大
- ◆ ものづくりの原点回帰と技術の強化
 - 材料から製品までの要素技術追求の体制強化
 - 先端技術を用いた生産技術面の強化



ミニチュア・小径ボールベアリング 販売数量推移

2006年10月31日

23



ボールベアリングは、現在、ミニチュアサイズのベアリング市場が成長しています。これはピボットアッシーが使用されるHDDやPCと周辺機器を含めたデジタル製品の小型化がその推進力となり、今後も更に増大すると考えています。

この増大する市場での対応には、常に供給力とコストが大きな鍵になります。供給力は市場の動向をよく見て、生産能力の拡大を常に市場で先行させる事が必要であると判断しております。今年ミニチュアベアリングの組立工程能力がボトルネックになっていたため、ここの増築と設備の増強を行いました。来期以降も市場の状況を見極めた上で適宜積極的な投資を行い月産2億個の体制を早期に作り上げていきます。コストについては継続的な原価低減に取り組み、生産能力の拡大と合わせタイムリーに実行できる力が必要になってきます。

そのために「ものづくり」を原点として回帰する体制を構築すると共に、技術面での多角的な取り組みが必要になります。特に、材料あるいは潤滑のような基礎的な要素技術を中心に追求を行っております。

生産技術面では今まで培ってきた設備開発の能力に加え、更に最先端技術を駆使したもう一つ上級の技術開発体制を目指して取り組んでいきます。

ロッドエンド・航空機用ベアリング・ファスナー事業の成長力

世界の民間航空機需要の伸び

◆Boeing社による世界の航空需要予測

・今後20年間で、世界で27,210機の新規旅客機が必要と見込まれる

・今後20年の航空旅客需要は年率+4.9%成長、航空貨物需要は年率+6.1%成長が見込まれる

(出典: Boeing Current Outlook 2006)

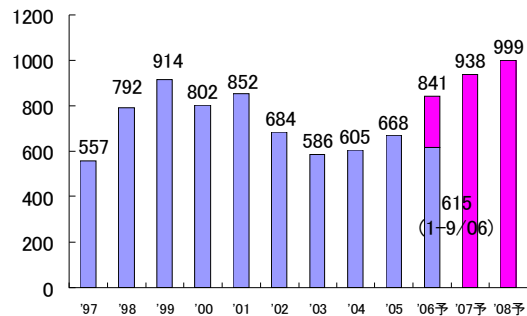
◆背景

- ・需要の増加: グローバル化の進展
- ・運賃の下落: 航空輸送のコストパフォーマンスの向上
- ・競争の激化: 航空会社の新規参入の増加/自由化の進展

◆ミネベアの航空機用部品事業

- ・ベアリング関連航空機用部品で世界シェア5割
- ・北米、欧州、日本、タイの4拠点生産体制

BoeingとAirbus合計の民間航空機生産機数



(出典: Boeing社、Airbus社、見込みは当社)

2006年10月31日

24



航空機用部品につきましては、全売上の10%を占めるに至り、且つ高付加価値製品であり利益率も高いものですので、この事業の拡大を積極的に行っていきます。グラフは民間航空機の中・大型機であるボーイングとエアバスの生産機数を示してあります。また需要の予測ですが、ボーイングが出した20年後の2025年までの見通しが記してあります。エアバス社も同時期に同じ様な予測をしており、その内容はほぼ同じものになっております。このほかに、日本にある航空機開発協会、或いはジェットエンジンメーカーを生産しているロールスロイス社等も見通しを出していますが、ほぼ同じような見通しの発表になります。

その背景にあるのが、旅客が年率5から6%、貨物が年率6%以上の成長率であります。

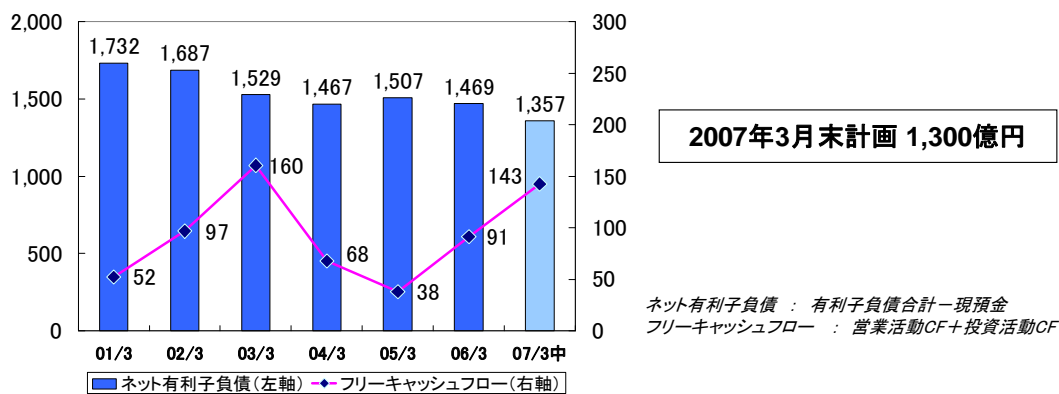
この中でボーイングはこの20年間で27,210機の新しい飛行機が必要になると言っています。同時に特徴的なことが、大型機中心から中・小型機の方へシフトしていくということであり、このことが機体数を多くすることになり、ここに多岐にわたります航空機部品ビジネスの成長チャンスが多くあるという事になります。

背景として中国をはじめとする発展途上国の需要と相俟ってこの中・小型機へシフトされてゆくがために、ここに示すようなグローバル化、新規参入、そしてサービスの質の向上等により、輸送業界の活況が生まれてくると予測するものです。

当社は先程説明申し上げましたように航空機部品事業の体制をより強固にしこの事業の成長を期したいと考えております。

キャッシュフロー：有利子負債削減を最優先

- ・増加するフリーキャッシュフロー ⇒ 有利子負債削減を最優先
中期的に、ネット有利子負債1,000億円を目指す
- ・中間配当は、当初見込み通り、見送り
- ・増配は検討課題



2006年10月31日

25



収益の改善を図ると同時に、在庫の削減を強力に進めることでフリーキャッシュフローを増加させ有利子負債の削減に取り組んでいます。損益改善、在庫削減共に目論み通り進んでいますので、フリーキャッシュフローは増加してきています。

有利子負債については先ずネットで1,000億円まで引き下げることを中期の目標としています。

中間期での配当は、当初見込み通り今期は見送りとなります。

一株当たり7円の期末配当見込みについても収益の増加に応じた増配は今後の重要な検討課題であります。

ミネベア株式会社

決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発・製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

2006年10月31日

